

2016年 年頭のご挨拶

理事長 中川 龍治

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、友朋会50周年ということで、皆様方には記念行事等にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。心より、御礼申し上げます。昨年1年間は「原点に戻る」という指針のもとに、50年の歴史を次の50年に生かしていくためには何をすればよいのかを模索した1年でもありました。そして、その答えは理念である「患者さんのために」日々精進し、進化した姿を具現化しなければ意味はない。しかもそれは、原点を見つめ直したうえでのことである。私自身、あらためてそのように決意した次第であります。新しい年に当たり、理念を貫き、継続する大切さを胸に以下の目標達成に挑んでいきたいと思っております。



本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2016年 友朋会の目標

- ① 4月からの新体制における組織を機能させる
- ② 広報活動を積極的に行い、地域連携を充実させる
- ③ 被災地支援を継続する



今年は診療報酬改定の年ですが、すでにマイナス改定ということが発表されています。昨年4月から、友朋会の経営状況は非常に厳しい状況で経過している中で、マイナス改定を迎えるということで、周知の準備と対応が迫られていると強く感じております。今年は新しい体制のもとに質の高い医療を提供し、友朋会における事業内容をしっかりと地域の皆様に情報提供していくことを実践したいと思っております。

4月からの体制は新副院長として、富松眞之 精神科副院長、竹下吉明 内科副院長、榎真佐史 内科副院長の副院長体制とします。また、現在の両副院長は江原孝 透析センター長、吉本静志 ストレスケアセンター長として、また、両先生とも継続して理事として新しい体制を支えていただきます。さらには、老人保健施設・朋寿苑施設長として林原歳久医師、認知症疾患医療センター長を松尾勝久医師にお願いすることとなります。これらの新しい組織体制が機能しますように、皆様のご理解をいただきながら努力していきたいと存じます。

広報活動につきましては、50周年記念アートセラピー美術館祭（3月）や秋まつり（10月）などを「地域の皆さんや患者さんのご家族が気軽に参加できる行事」として成功できますように、広報のあり方やシステムについて、地域連携に繋がる見直しを行っていきたく思っています。

被災地支援ということでは一昨年から、秋まつりの際にバルーンリリースを行っております。昨年は600個でした。福島県から購入した種子を風船につけてリリースするだけではありますが、その思いは大切であり、継続することが重要だと信じております。

また、この1年、我々友朋会職員一同は、誠意をもって真摯に、研ぎ澄まされた一人一人がひとつとなり、どんな小さなことでもひとつずつ根気強く積み重ね、前を向いて、しっかりと精進していきます。

平成28年度 年頭の挨拶

嬉野温泉病院 副院長 江原 孝

新年あけまして、おめでとうございます。
昨年は、大きな事故もなく4回目の病院機能評価の審査も無事に終わりました。

今年度の診療報酬改定は、本体がプラス0.49%ですが薬価・材料費がマイナス1.33%で結果マイナス0.84%となるようです。2年後は医療保険と介護保険の同時改定の年でもあり、今後はよりいっそう効率の良い病院経営が求められております。



私が医療に携わった時代は、病院で患者さんを治すこと、救う医療でした。しかし、近年高齢者の医療・介護負担が増大し財政的観点から在宅医療や介護を中心とした地域医療構想が平成30年を目標に大きく変化してきます。

今後、慢性期病院や施設・在宅医療では、患者さんは病気を抱えて生きること、我々は支え癒しながら看取る医療の時代になると思われます。

今年の4月からは、新しい副院長体制がスタートします。

私自身も初心に立ち返り患者さんのために、今なにができるか・なにがベストなのか常に考えながら診療しようと思っています。皆さんと一緒に充実した年になるよう頑張りましょう。

